

2021 冬休み向けスマホアプリトラブル事例

ケータイネット安全委員会 委員長 中里崇彦

コロナ禍で子どもたちがインターネットに触れる機会が多くなり、ゲーム機・スマホ・タブレットを見る時間も増えていると思います。冬休みにむけて、子どもたちに人気アプリのトラブル事例を紹介します。

ただし下記に例にあげたアプリも、注意して正しく使えば便利なアプリです。事例を参考に、家庭でルールを作って使うようにしましょう。



インスタ（インスタグラム）

Facebook 社が社名を Meta に変更したが、こちらも Meta がサービスを提供している。画像や動画を視聴、投稿できる。リール（TikTok のような機能）や LINE と同じ様なダイレクトメッセージ機能を使う事もできて SNS 各種のオールインワンに近い。

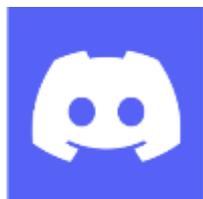
※電話機能が5月に実装

アプリ電話で音声通話、ビデオ通話ができ、フォロワー以外ともやり取りが可能。

全く知らない人からいきなり電話が掛かってくる可能性があります。

登録名に本名・顔写真の使用は十分考えて下さい。

投稿内容・フォロー先・フォロワーから本人や周りの人も特定される危険性があります。



ディスコ（Discord）

ゲームに特化した SNS アプリ。LINE のゲーム版という位置づけで、mixi のように招待して部屋に入ったり・作ったりが出来ます。E スポーツやゲーム会社でも連絡やファンの交流にしようとしています。

※脆弱性がある

マルウェアのトラブルが多く、情報漏洩の危険性もあります。

セキュリティ対策をしたうえで使用して下さい。



ゼンリー（Zenly）

位置情報共有アプリで家族や友人やフォロワーと位置情報を共有してメッセージのやり取りや電話が出来る。

※通常の音声通話が出来て、初期設定では電話番号が公開である

フォロワーには公開、フォロワー以外には非公開なのでネット上の友達に電話番号を知られてしまいます。

全てのアプリに共通する対策

- ・プライバシー設定の見直し。アプリにダイレクトメッセージ機能必要無ければ使用不可に変更。
- ・連絡帳の同期、アプリから連絡帳への使用許可は慎重に行いましょう。同期すると自動で登録されて楽ですが、アプリによっては初期設定のままだと情報漏洩につながりかねません。出来る限り必要な連絡先だけ直接入力が見まします。
- ・アプリの使用目的を考えて初期設定を行う。本名や顔写真の登録は本当に必要なのか考えましょう。
- ・GPS 位置情報設定の見直し。位置情報を使用しないアプリは設定をオフにしましょう。

アプリは情報の取得や拡散、勉強から娯楽まで非常に有用です。使い方によっては犯罪の被害者・加害者にもなり、依存症の危険もあります。冬休みに子どもと一緒に使い方やネットリテラシーを考えてみて下さい。